

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人栃の木会		
事業所名	社会福祉法人栃の木会 認知症高齢者グループホームいしばし		
所在地	栃木県下野市上古山569-1 (電話) 0285-53-8866		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年1月14日	評価確定日	平成22年2月17日

【情報提供票より】 (平成21年12月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人 (兼務2人), 非常勤2人, 常勤換算7.78人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費-20,000円 ・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・レクリエーション費-実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年12月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		名	
要介護5	名	要支援2		1 名	
年齢	平均 84 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	独協医科大学病院、大栗内科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、周辺に住宅地や田畑が広がっており季節感を感じられる場所に立地している。ホーム外観は近隣にある同法人事業所と共通する洋風な佇まいとなっており、内部は和風で木のぬくもりが感じられる造りになっている。共用部の広さも十分に確保された解放感溢れる設計で、室内のいたるところに季節を感じさせる掲示物等が施され、入居者へやすらぎを与えている。法人の理念である「敬う心と優しい心」に加え、「うさぎのような大きい耳でご利用者の声を聴きのがしません。ご高齢者を敬い優しい心と笑顔で寄り添います」というホーム独自の理念を掲げている。入居者一人ひとりの個性を引き出し、慣れ親しんだ地域でその人らしい暮らしを支援している様子が感じられる他、地域にも積極的に溶け込もうとする姿勢が見られた。ハード面の充実した機能に加え、入居者と職員の明るい声や穏やかな笑顔が満ち溢れているホームである。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>今回は初めての評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>評価を受けるに当たり、内部研修を実施し、管理者は全職員に対して、評価の狙いや意義、実践方法を伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。職員各々の立場や視点から項目毎に取り組み、全職員で検討した結果を管理者がまとめあげた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には家族代表、市担当課長、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、同法人特養の施設長等の参加により開催しており、入居者の暮らしぶりやホームの運営状況等の報告を行い、参加者から意見や助言を出してもらう等、活発な意見交換が行われている。会議で出された意見や要望等は、職員会議において話し合いを行い、支援の向上に努めている。会議の結果については、家族にも報告をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族の来所時には意見や要望等を表しやすい雰囲気作りを心がけており、家族からの提案で「失禁予防体操」を取り入れる等、家族の意見や要望を運営に反映させている。苦情相談窓口担当者を設置しており、担当者不在でもその日のリーダーが代行できるようにしている他、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を掲載しており、ホーム以外にも苦情等を表す機会を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の清掃活動や廃品回収等に協力している。ホームの夏祭りには、地域住民にも参加を呼び掛け、ホームへの理解を深めてもらう機会としている。小学校の田植えや稲刈りに招待され、お返しに縁起物の稲穂の飾りを贈ったり、総合学習において事前講習後に訪問してもらったり、敬老会に招待された際も、入居者が昔の遊びを教える等、双方向的な交流に努めている。定期的ではないが、ボランティアの受け入れも積極的に行っており、日常的に地域に溶け込もうとする姿勢がうかがえる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々や家族等と常に交流を持ちながら、入居者の想いや希望を受け止め、心豊かで尊厳のある暮らしを支援できるよう、ホームのキャラクターであるうさぎのように大きい耳で入居者の小さな声も聴き逃さず、優しい心と笑顔で寄り添う」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人やホームの理念を玄関や事務室に掲示している他、管理者と共に全職員が毎日の朝礼で唱和することにより、理念の共有に努めている。地域や家族等の交流や本人本位の支援に努めており、理念に沿った実践に取り組んでいる。	○	掲示してある理念は見過ごしてしまうような場所に掲示されていることから、家族等の来所時にも確認しやすい場所や掲示物の大きさ等の検討を行い、職員だけでなく広く理念の周知を図って行く取り組みにも期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の清掃活動や廃品回収等に協力している。ホームの夏祭りには、地域住民にも参加を呼び掛け、ホームへの理解を深めてもらう機会としている。小学校の田植えや稲刈りに招待され、お返しに縁起物の稲穂の飾りを贈ったり、総合学習において事前講習後に訪問してもらったり、敬老会に招待された際も、入居者が昔の遊びを教える等、双方向的な交流に努めている。定期的ではないが、ボランティアの受け入れも積極的に行っており、日常的に地域に溶け込もうとする姿勢がうかがえる。	○	入居者との散歩中に認知症に対する偏見を感じたことから、地域包括支援センター主催の介護教室において講師を務める等、地域住民への認知症に対する啓発にも努めながら、今後も地域に受け入れられるホームを目指した取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価である。評価を受けるに当たり、内部研修を実施し、管理者は全職員に対して、評価の狙いや意義、実践方法を伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。職員各々の立場や視点から項目毎に取り組む、全職員で検討した結果を管理者がまとめあげた。		

認知症高齢者グループホームいしばし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族代表、市担当課長、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、同法人特養の施設長等の参加により開催しており、入居者の暮らしぶりやホームの運営状況等の報告を行い、参加者から意見や助言を出してもらおう等、活発な意見交換が行われている。会議で出された意見や要望等は、職員会議において話し合いを行い、支援の向上に努めている。会議の結果については、家族にも報告をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当課長が出席している事から、各種研修情報の伝達や市主催の市内の福祉施設めぐりでは、見学を受け入れる等、ホームの運営や実情を積極的に伝える機会を作り、共有を図る事に取り組んでいる。	○	入居者の介護保険認定更新時等に、市担当職員とホームの運営上の課題についての相談や解決に向けた協議を行う他、今後、地域包括支援センターとの協働による取り組みにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の暮らしぶりや健康状態等の報告は、来所時に随時報告を行う他、毎月発行しているホームの広報誌「いしばし通信」と共に毎日の出来事等を記入した生活の一コマを担当職員のコメントを添えて送付している。預かり金は、半期毎に家族へ収支の報告を行い確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には意見や要望等を表しやすい雰囲気作りを心がけており、家族からの提案で「失禁予防体操」を取り入れる等、家族の意見や要望を運営に反映させている。苦情相談窓口担当者を設置しており、担当者不在でもその日のリーダーが代行できるようにしている他、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を掲載しており、ホーム以外にも苦情等を表す機会を設けている。	○	家族からの意見や要望をホームの運営に反映させて行く為にも、運営推進会議への参加の呼びかけや定期的なアンケートの実施、家族間のコミュニケーションの場の創設等、家族からの意見を積極的に受け入れる機会作りを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は馴染みの職員の継続的な支援を重視しており、異動は極力控えるようにしている。やむを得ない異動や離職により職員が代わる場合には、入居者にマイナスイメージを与えるような言葉には充分配慮しながら説明を行い、入居者にダメージが出ないように努めている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員の勤務年数等を考慮したうえで認知症介護実践研修等に職員を参加させている。また、法人で実施している内部研修会にも受講する機会を与えている。新人職員には、業務内容を配慮しながら2ヶ月間の実習期間を設けた「新人業務マニュアル」に添って対応しており、不安を解消できるような職員育成の取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に3か所ある同業者との交流の機会として、各事業所職員が他ホームを見学できる相互訪問を行う関係が構築されたことから、受け入れを積極的に行い、他事業所職員との交流をとおしてサービスの質の向上に向け取り組んでいる。	○	市内の同業者との関係は相互訪問を行うことで交流が深まりつつあるが、今後は意見交換や相互評価等を通して、互いの事業所や地域全体としてのサービス水準の向上を目指して行くことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、本人宅へ訪問して、本人や家族から要望や不安点の確認を行う他、ホームでの暮らしぶりやホームの方針等を伝えている。他施設からの入居希望があった場合には、担当ケアマネジャーから情報を得て対応している。本人や家族の希望によっては1日体験利用や宿泊体験も取り入れており、安心し納得したうえで入居できる様に工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者との日々の暮らしの中で入居者の生活体験を聞くことにより、歩んできた人生を知り、生活史を大切にされた支援に努めている他、職員からも体験談を話したり、話題になっているニュースの話をするなど、日々喜怒哀楽を共にしている。ホームで行っている今年の「初笑い歌謡ショー」では、入居者と共に職員も和服を着る等の機会を持ち、楽しみを引き出すきっかけを築いている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向の把握には、家族からの生活歴の確認やセンター方式やフェイスシート等を活用し、個々の生活スタイルを尊重しながら意向の把握に努めている。帰宅願望や人間関係の軋轢から自室に閉じこもる入居者の小さな声も聞き逃さず、一人ひとりに寄り添いながらの支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、入居者、家族、担当職員により話し合いを行い、本人や家族の要望や意向も考慮すると共にミーティング記録やヒヤリハット報告書などからの課題についても協議を重ね、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6カ月毎に見直しを行っている。入居者の体調や状態に大きな変化が見られた場合には、本人及び家族、担当者や医師等の関係機関とも十分に話し合いを重ねるなど、臨機応変な見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医等の通院については、家族が対応出来ない場合には職員が無料で通院介助を行っている。入居者がホームで安心して暮らし続けられ、家族の負担も軽減できるよう、必要に応じて柔軟な支援に努めている。		

認知症高齢者グループホームいしばし


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。通院の際には、必要に応じホームでのバイタルチェック表を持参している他、状態に変化があった場合には主治医に随時報告を行い、指示を受け対応している。受診結果については、全職員が情報を共有して支援に活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人及び家族に、重度化した場合や医療行為が継続的に必要となった場合等にはホームでの生活が難しい事を説明しているが、主治医との連携を図り意見を仰ぎながら、生活上の支障がない場合はできる限りホームで支援する方針であり、職員も方針を共有している。現時点では、ターミナルケアの実施は難しい状況にある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	法人全体で「接遇改善委員会」を設置しており、毎月の接遇目標を朝礼時に唱和し、意識の向上を図っている。法人の理念でもある「敬う心と優しい心」を念頭に、丁寧な言葉とおもてなしの心で尊厳をもって接するように努めている。個人記録のファイル等は、介護員室にて適切に保管し、プライバシーの確保を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課は概ね決まっているが、入居者個々の状態に合わせ時間をずらしたり、入居者に希望を確認する等、柔軟な対応を心がけており、夜間のテレビ鑑賞等、一人ひとりのペースに添った支援を行っている。		

認知症高齢者グループホームいしばし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前に職員が献立の説明や調理方法等を紹介しており、献立を記録している入居者もいる。食事が楽しみなものになるよう、入居者の好き嫌いな物の把握に努め、献立の作成にも活かしている。昼食時のみ、職員は入居者と共と同じ物を一緒に食べている。	○	食事は入居者にとって力の発揮や参加の場であり、入居者同士や職員との関係作りなどの点からも、食材の買出し、調理、配膳、食事、片付け等の一連の作業を入居者と職員が一緒に行いながら進めていく支援の取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しているが、一日おきに交代で入浴している。浴室からは竹林が眺められ、職員と世間話をしながら、ゆったりとした入浴支援をしている。入浴に対して拒否のある入居者には、本人の思いを尊重しているが、「通院前なのでどうですか」等と声かけを行い、タイミングを見計らい支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者各々の生活歴を活かして、清掃、洗濯干しや洗濯物たたみ、食器拭き等、職員の積極的な声かけにより様々な役割の支援をしている。ホームでは絵画や手紙、読書、書道等の趣味を活かした支援を行っている他に、近隣にある同法人事業所で行っている、華道クラブの活動にも参加する機会を設けており、入居者の生きがいとなっている。また、市や法人の文化祭にも作品を出展して、見学に出かける等、楽しみや張り合いのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散策やミニドライブ、ショッピングや外食、公園へ写生に出かける等、入居者の体調等にも考慮したうえで日常的な外出の機会を設けている。	○	身体的に重度な入居者であっても、五感の刺激を得るためには戸外に出かけることは重要であることから、外出が特定の入居者に限られることなく、入居者すべてが外出の機会を持てるような取り組みに期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは周辺道路の交通量を考慮して、入居者の安全上観点から玄関を施錠している。玄関は電子錠になっており、入居者は職員と共に出入りを行っている。なお、各居室の窓は施錠をしておらず、居室から外のテラスへは出入りが自由となっている。	○	玄関を施錠することにより、入居者にもたらず心理的閉塞感や家族や地域住民にもたらず印象等のデメリットについて、職員会議や運営推進会議において検討を重ね、今後、入居者の安全を確保しながら、日中玄関に施錠をしない取り組みに期待したい。

認知症高齢者グループホームいしばし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練については消防署員の協力の下、3カ月毎に通報訓練や避難訓練等を実施しており、有事の際に備えている。	○	地震や水害対策も今後の課題となっていることから、職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域住民からの協力体制の構築や支援方法についての話し合いを行うなど、地域と合同での防災訓練の実施に向けた取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの献立は、同法人特別養護老人ホームの栄養士によるカロリー計算に基づき作成している。食事や水分の摂取量については、入居者一人ひとりの摂取量を把握しながら、毎食チェックし記録をしている。水分摂取については、脱水にならないよう、入居者の好きな飲み物等で、1日1500mlを目安に摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花が飾られ、入居者の作品展示や季節毎の装飾が掲示されている。ホームのキャラクターである「うさぎ」の置物や絵等の装飾もあり、温かみのある雰囲気を醸し出している。トイレの窓には、シルエットが外部から見える事を気にかける入居者の想いを考慮し、カフェカーテンや観葉植物を配置する等の工夫をしている。一斉換気をしているため、気になる臭いや空気の日どみ等は感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは入居時等に入居者や家族に対して、馴染みの品々や使い慣れた物を持込んでもらうよう促しており、各居室は入居者のなじみの品々を活かした個性的なレイアウトとなっている。入居者の好みの物や大切な物を職員は把握しており、本人が居心地良く過ごせる様、支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。